

平成 27 年1月1日以降の実績

1号機

【滞留水の移送】

- ・1号機タービン建屋地下→1号機廃棄物処理建屋
1月6日午前9時 46 分～午後4時4分

【その他】

現時点での特記事項無し

2号機

【滞留水の移送】

- ・2号機タービン建屋地下→集中廃棄物処理施設(高温焼却炉建屋)
平成 26 年 12 月 22 日午前9時 58 分～

【その他】

- ・2号機海水配管トレンチについては、平成 26 年 12 月 24 日にトレンチ内の滞留水を2号機立坑A及び立坑C北から2号機タービン建屋へ移送し、トンネル部の連通性を確認。再度トンネル部の連通性を確認するため、平成 27 年 1 月 20 日午前 10 時 00 分から午前 11 時 00 分にトレンチ内の滞留水を2号機立坑Aから2号機タービン建屋へ移送を実施。

3号機

【滞留水の移送】

- ・3号機タービン建屋地下→集中廃棄物処理施設(高温焼却炉建屋)
移送実績無し

- ・3号機タービン建屋地下→プロセス主建屋
1月18日午前10時21分～

【その他】

現時点での特記事項無し

4号機

現時点での特記事項無し

5号機

現時点での特記事項無し

6号機

現時点での特記事項無し

共用プール

現時点での特記事項無し

水処理装置および貯蔵設備の状況

【タンクパトロール結果】

<特記事項>

- ・平成 26 年 12 月 31 日午後0時 39 分頃、H2タンクエリア内のB2タンク(フランジ型タンク)側面縦フランジ部に、にじみ(5～6秒に1滴程度の滴下)を、タンクパトロール中の当社社員が発見。その後、滴下は 60 秒に1滴程度まで減少。滴下した水は容器に受けており、容器に溜まった水の表面線量率を測定したところ、ベータ線(70 μ m 線量当量率)で 0.03mSv/h、ガンマ線(1cm 線量当量率)で 0.01mSv/h であり、バックグラウンドと同程度であった。このことから、タンク内の水がにじみ出たものではないと考えている。平成 27 年1月1日午前8時、当該部ににじみがないことを確認。

【H4, H6 エリアタンクにおける水漏れに関するサンプリング結果】

- ・H4エリア周辺地下水E-1の全ベータ値は、29,000Bq/L(採取日:1月23日)となっており、前回採取時の 2,300 Bq/L(採取日:1月22日)と比較し上昇していることを確認。この値は、過去の変動の範囲内(68,000 Bq/L[採取日:1月16日])であり、当該観測孔の全ベータにおいては、降雨の際に以前にも上昇が見られていることから、今回の上昇についても、降雨が影響したものと考えている。今後も監視を継続していく。

【地下貯水槽に関する水のサンプリング結果】

現時点での特記事項無し

【セシウム除去設備】

- ・1月6日午前11時47分、セシウム吸着装置について、セシウムおよびストロンチウム処理の準備が整ったことから、処理運転を開始。

【多核種除去設備(ALPS)】

現時点での特記事項無し

【増設多核種除去設備】

現時点での特記事項無し

【高性能多核種除去設備】

現時点での特記事項無し

【淡水化装置】

・1月 19 日午後3時 13 分頃、5・6号機北側に設置してある淡水化装置(RO)の漏えい検知器が動作。同日午後3時 15 分に当社社員が現場にて、漏えい範囲が約1m×約5m×約1mm であることとRO装置が停止していることを確認。漏えいはRO装置のコンテナ内に留まっており、外部への流出はなかった。漏えい箇所について調査した結果、設備からの漏えいは確認されず、漏えい箇所付近に仮置きしていた洗浄用水を入れたポリタンクのキャップより漏えいが確認されたことから、ポリタンク内の洗浄水が漏えいしたものと推定。漏えいした水(約5L)については回収を終了。

＜ポリタンク水の放射能分析結果＞

- ・セシウム-134 検出限界値(1.7×10^4 Bq/L)未満
- ・セシウム-137 検出限界値 (2.5×10^4 Bq/L) 未満
- ・全ベータ 1.1×10^2 Bq/L

【サブドレン他水処理施設】

現時点での特記事項無し

【RO濃縮水処理設備】

・1月 10 日午前 10 時 18 分、RO濃縮水処理設備について運転を開始。運転開始後の状況について、漏えい等の異常のないことを確認。なお、本設備で処理した水は、改めて多核種除去設備にて処理する予定。

地下水バイパス

【排水実績】

＜排水実績＞

- ・一時貯留タンクグループ2 1月5日午前 10 時6分～午後5時 27 分。排水量:1,879 m³
- ・一時貯留タンクグループ1 1月 11 日午前9時 55 分～午後6時 17 分。排水量:2,120 m³
- ・一時貯留タンクグループ3 1月 17 日午前 10 時4分～午後6時 25 分。排水量:2,120 m³
- ・一時貯留タンクグループ2 1月 23 日午前 10 時9分～午後5時 24 分。排水量:1,850 m³

＜特記事項＞

- ・地下水バイパス揚水井 No.12 について、揚水ポンプおよび、揚水井内部の清掃作業を行うため、平成 26 年 12 月 12 日午前7時1分に停止。清掃が完了したことから平成 27 年1月 6日午後5時 41 分に地下水の汲み上げを再開。
- ・地下水バイパス揚水井 No.10 について、揚水ポンプおよび、揚水井内部の清掃作業を行うため、1月 13 日午前8時 57 分に停止。

【地下水バイパス揚水井のサンプリング結果】

＜特記事項＞

地下水調査関連

【地下水観測孔のサンプリング結果】

＜特記事項＞

・平成 26 年 12 月 31 日に採取した地下水観測孔 No.2の地下水の分析値について以下の通り変動がみられた。

＜今回(12月31日)採取分＞

- ・セシウム 134 2.1Bq/L(過去最大値)〔前回分析値(12月29日採取):検出限界値(0.39 Bq/L)未満〕
- ・セシウム 137 7.7Bq/L(過去最大値)〔前回分析値(12月29日採取):検出限界値(0.58 Bq/L)未満〕

＜参考:過去最高値＞

- ・セシウム 134:0.88 Bq/L(平成 26 年2月 26 日採取分)
- ・セシウム 137:2.5 Bq/L(平成 26 年2月 26 日採取分)

なお、当該観測孔の位置する2. 3号機取水口間では、海洋への流出防止を目的として、ウェルポイントによる地下水の汲み上げを継続している。その他分析結果については、前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

・1月2日に採取した地下水観測孔 No.2-7 の地下水の分析値について以下の通り変動がみられた。

＜今回(1月2日)採取分＞

- ・セシウム 137:12Bq/L(過去最大値)〔前回分析値(平成 26 年 12 月 31 日採取):0.92 Bq/L〕

＜参考:過去最高値＞

- ・セシウム 137:9.0Bq/L(平成 26 年2月 23 日採取分)

その他分析結果については、前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

・1月 12 日に採取した地下水観測孔 No.1-12 の汲み上げ水について、セシウム 134、セシウム 137、コバルト 60 および全ベータの値が、前回値と比較して高く、過去最高値が検出された。このため、1月 13 日に再度本観測孔の水を採取。その結果は、セシウム 134、セシウム 137、コバルト 60 および全ベータの値とも、前回(1/12 採取)から低減しており、ほぼ前々回(1/8採取)の測定結果と同程度の値となっている。

＜地下水観測孔 No.1-12 の測定結果:今回(1月13日)採取分＞

- ・セシウム 134: 4.2 Bq/L
- ・セシウム 137: 13 Bq/L
- ・コバルト 60 :検出限界値未満
- ・全ベータ : 280 Bq/L

＜今回(1月12日)採取分＞

- ・セシウム 134: 140 Bq/L
- ・セシウム 137: 470 Bq/L
- ・コバルト 60 : 1.9 Bq/L
- ・全ベータ :15,000 Bq/L

<参考:前回(1月8日)採取分>

- ・セシウム 134:2.8 Bq/L(お知らせ済み)
- ・セシウム 137:7.8 Bq/L(お知らせ済み)
- ・コバルト 60 :検出限界未満(お知らせ済み)
- ・全ベータ :260 Bq/L(お知らせ済み)

本日採取した他の観測孔の測定結果については有意な変動が見られていない。1月13日に再度本観測孔で採取するなど、今後も監視を継続する。

なお、地下水観測孔 No.1-12 の位置する1・2号機取水口間では、海洋への流出防止を目的として、ウェルポイントにおける地下水の汲み上げを継続している。

【1～4号機サブドレン観測井のサンプリング結果】

<特記事項>

・2号機サブドレンに高い放射能濃度が検出された件について、高い放射能濃度が検出されたサブドレン No.18 および No.19(以下、「当該サブドレン」)に連結管で接続されているサブドレン No.17 の閉塞作業を平成26年11月21日に完了。その後の分析結果において有意な変動がないことから、当該サブドレンおよび周辺のサブドレンの放射能分析を1週間に1回から通常の監視体制に変更する。

その他

【その他設備からの水漏れ】

現時点での特記事項無し

【油漏れ】

・平成27年1月16日午後6時10分頃、構内4号機西側において、凍土壁工事にて使用していた削孔機の油圧ホースから油が漏れいしていることを、協力企業作業員が発見。油の漏れいは連続滴下で継続していたため受けを設置し、漏れいに伴い周辺の鉄板上に溜まった油については拭き取りを実施。また、同日午後6時39分に一般回線にて富岡消防署へ連絡。

漏れいした油は油圧ホースからの漏れいであることから、削孔機の制御油と判断。削孔機周辺の敷鉄板上に溜まった油については、同日午後7時8分に吸着マットによる拭き取りを完了。また、同日午後8時00分頃、油圧ホースを取り外し、油圧ホース取付け口に閉止栓を取り付けたことで油の漏れいが止まったことを確認。

削孔機から漏れいした油の量は、周辺の敷鉄板上に溜まった油の量が約2m×約3mの範囲で約6リットル、油圧ホースの受けに溜まった油の量は、約40リットルであることを確認。なお、同日午後8時11分に富岡消防署より「油漏れ事象」との判断を受けた。

【その他設備の不具合・トラブル】

現時点での特記事項無し

【けが人・体調不良者等】

・1月13日午前9時45分頃、2号機原子炉建屋1階除染作業中、吊り上げ作業中の鉛板に、協力企業作業員の頭部が接触し首の痛みを訴えたことから、入退域管理棟救急医療室にて医師の診断を受診。その結果、緊急搬送の必要があると判断し、同日午前11時13分、救急車を要請。

なお、当該作業員については意識があり、自力歩行が可能であるが、頭部の接触であることから、念のため検査を実施し医師による診察(CTおよびMRI検査を実施)の結果、「頭部打撲」と診断。

また、負傷したときの状況について、その後の聞き取りにより、「当該作業にて使用していた昇降台車を移動させる際、上部既設物に昇降台車の手摺(折り畳み式、鉛板4枚取付)が干渉するため、手摺を折り畳んで移動しようとした。その際、負傷者を含む作業員2名が手摺を折り畳むレバーを動かしたところ、手摺りが負傷した作業員の頭部に倒れ、左手薬指をヘルメットの上に挟むとともに頭部にぶつかり負傷した」とことを確認。

・1月15日午後0時20分頃、構内G5タンクエリアにおいて、協力企業作業員が汚染水タンク雨水抑制対策工事中にグラインダーで左手を負傷した。その後、入退域管理棟救急医療室にて医師の診察を受けたところ、緊急搬送の必要があると判断されたため、午後1時36分に救急車を要請。午後2時6分に急患移送車にて同発電所を出発し、富岡消防署(救急車待機場所)で救急車に乗り換えて、いわき市立総合磐城共立病院へ向かった。なお、当該作業員の身体への放射性物質の付着はなかった。医師による診察の結果、「左示指挫創」、「左中指末節骨開放骨折」と診断。今後、約2ヶ月程度の通院加療を要する見込み。

・1月19日午前9時10分頃、構内の雨水処理タンクエリアにおいて、雨水受けタンク設置工事を請け負った企業の社員(元請社員)が、タンク天板上部(約10m)から墜落したとの連絡が緊急時対策本部に入った。その後、救急医療室にて医師の診察を受け、意識はあるものの、動けない状態であった。同日午前10時31分に入退域管理棟救急医療室から救急車にていわき市立総合磐城共立病院へ向かった。負傷者は、当該タンク水張り試験後のタンク内面の検査をするため、当社社員1名および元請社員2名(うち1名は負傷者)の3名で、検査準備を実施していたが、タンク内部が暗かったことから、タンク内に明かりを取り込むため当該タンク上部へ上がり、タンク天板にあるマンホールの蓋を一人で開けようとした際に、マンホールの蓋とともにタンク内部へ墜落したものと推定。なお、負傷者は安全帯を装備していたが、使用状況については調査中。当該負傷者の身体に放射性物質の付着はない。その後、同日午前11時43分に病院へ到着し医師による治療を行っていたが、1月20日午前1時22分に死亡を確認。

【その他】

現時点での特記事項無し

以上